

3 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は下げ止まりの兆しがみられる。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

前回調査からの主要変更点

	前回(平成28年2月)	今回(平成28年5月)	
景況判断	持ち直し基調	持ち直している	
鉱工業生産	緩やかに減少	下げ止まりの兆し	
個人消費	持ち直しの動き	持ち直している	
住宅建設	減少	大幅に増加	

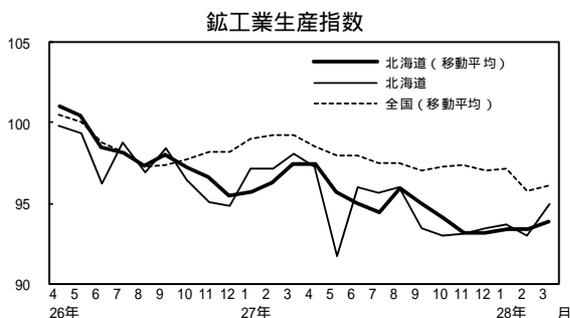
1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産は前年を上回り、水産業の水揚量は前年を下回っている。

1～3月期には、生乳生産は総量では979,408tと前年比3.0%増となり、乳製品向け等が増加した。水産物の水揚量(主要8港)は、ほっけ等が減少したため、前年比50.1%減となった。

(2) 鉱工業生産は、下げ止まりの兆しがみられる。

1～3月期には、食料品は、主に砂糖等が好調だったこと等から増加した。パルプ・紙は、工場の定期点検の終了等に伴い増加した。電気機械は、新製品の生産により無線通信装置等を中心に増加した。鉄鋼は、道外工場からの応援生産要請を受けたこともあり、自動車用鋼材等を中心に増加した。輸送機械は、計画減産の影響により、自動車駆動電動装置等を中心に減少した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		10～12 月期	1～3 月期	1月	2月	3月
食料品	24.2	1.6	3.2	0.7	0.8	0.5
パルプ・紙	11.9	0.2	1.5	2.0	1.3	1.4
電気機械	11.7	11.5	18.3	13.8	9.0	0.8
鉄鋼	7.5	6.6	5.7	7.2	5.1	1.1
輸送機械	7.0	1.3	6.7	2.4	15.6	30.4
鉱工業	100.0	1.9	0.8	0.2	0.7	2.0

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

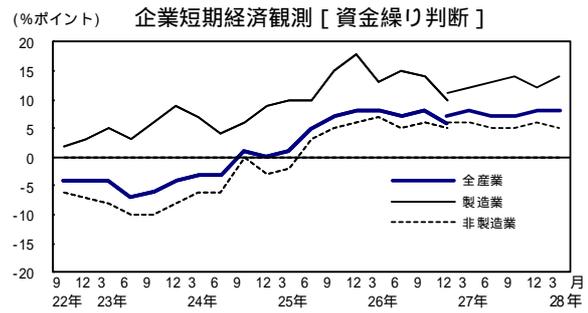
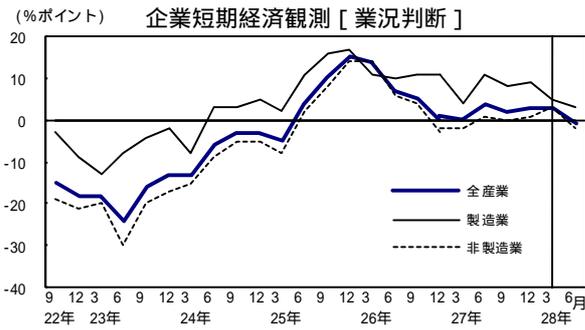
2. 1～3月期、3月は速報値。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。最新月は速報値。

2. 全国及び北海道の大線は後方3か月移動平均。

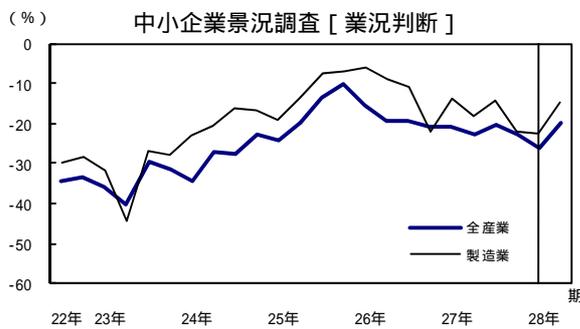
(3) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が、資金繰り判断は「楽である」超幅がそれぞれ横ばいとなっている。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。28年6月は予測。26年12月は新・旧基準を併記。

(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。26年12月は新・旧基準を併記。

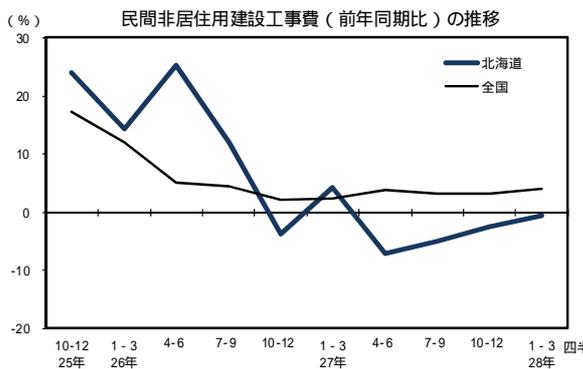


(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。28年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(4月調査結果)[企業動向関連(現状)]

「新年度になり、客先からの見積案件が増えてきた。消耗資材の売上は低迷中だが、大型設備案件の納入により売上全体が底上げされている(その他非製造業[鋼材卸売])」などの回答がみられた。

(4) 設備投資の民間非居住用建設工事は減少している。



企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

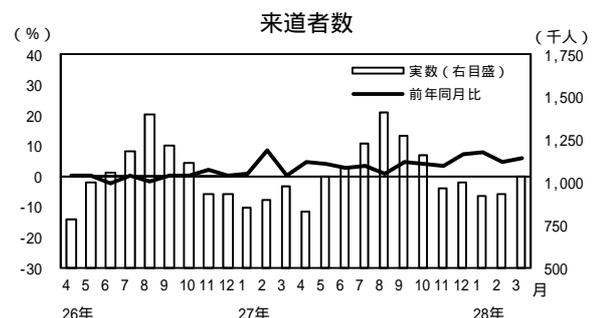
(前年度比、%)

	27年度実績見込み	28年度見込み
全産業	12.2(0.4)	13.5
製造業	14.4(0.1)	19.3
非製造業	11.4(0.5)	11.1

(備考) 1. ()は前回(12月)調査比修正率。電気・ガスを除く。
2. リース会計対応ベース。

(5) 観光は、増加している。

来道者数は、さっぽろ雪まつり等のイベントがあったことや、直行便増便等により増加した。



(備考)北海道観光振興機構調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費は、持ち直している。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

1月は前月比1.4%増、2月は同2.1%減、3月は同3.8%増となった。

百貨店・スーパー販売額

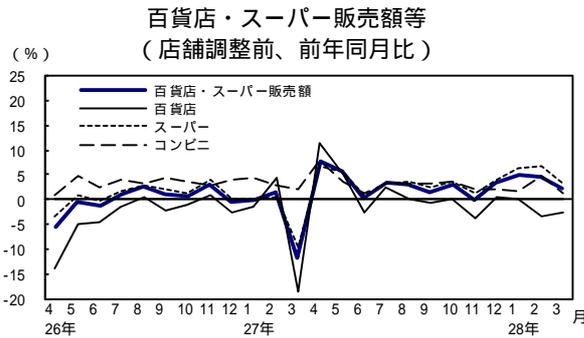
百貨店は、1月は、身の回り品、飲食料品、その他は前年を上回ったものの、衣料品は前年を下回った。2月は、飲食料品、その他は前年を上回ったものの、衣料品、身の回り品は前年を下回った。3月は、その他は前年を上回ったものの、衣料品、身の回り品、飲食料品は前年を下回った。

スーパーは、主に飲食料品が好調だったこと等から、前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (4月調査結果) [家計動向関連 (現状)]

北海道地域の家計動向関連DIは、44.3となり前月より0.8ポイント低下した。

「3か月前と比べて売上が14%程度下がっており、やや悪くなっている。北海道新幹線が開業したが、予想よりも利用客が少なく、売上も伸びていない(タクシー運転手)」など、「やや悪くなっている」とする回答が増加した。

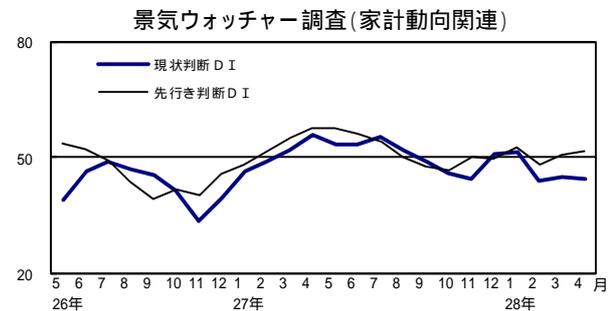
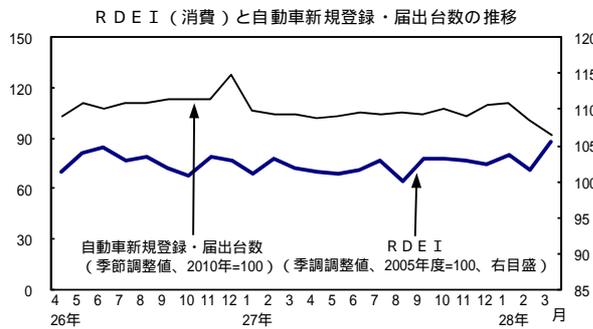


	28年1-3月	28年1月	2月	3月
RDEI (消費*1)	0.8	1.4	2.1	3.8
百貨店・スーパー(*2)	3.9	5.1	4.7	2.2
百貨店(*2)	1.9	0.1	3.3	2.5
スーパー(*2)	5.5	6.4	6.9	3.4
コンビニ(*2)	2.4	1.6	4.9	1.1
乗用車(*3)	5.2	3.5	2.4	10.5
(季節調整値)(*3)	5.1	1.2	9.0	9.7

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

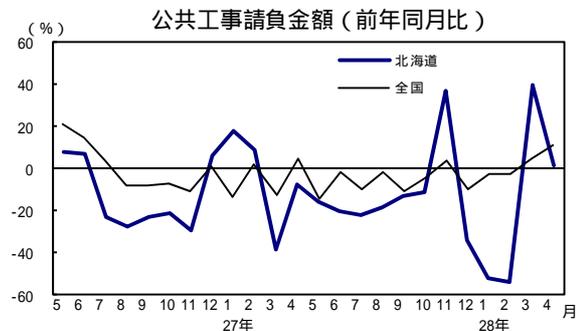
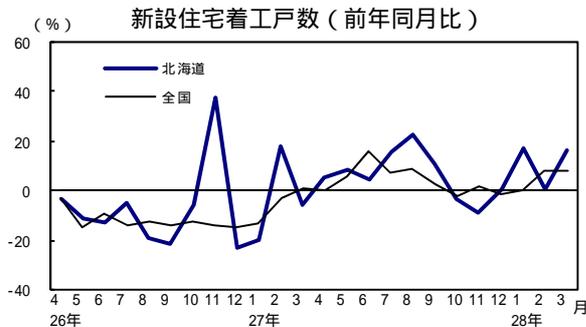
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

持家、貸家が前年を上回ったことから、全体では大幅に増加している。

(3) 公共投資は27年度累計で見ると前年度を下回っている。

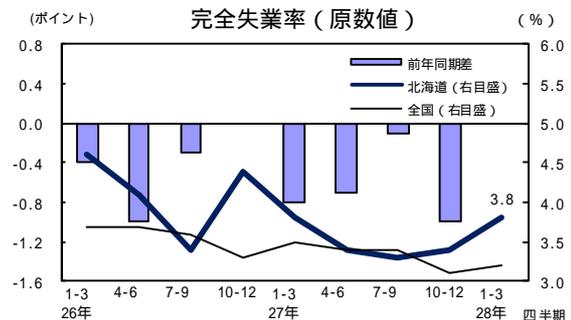
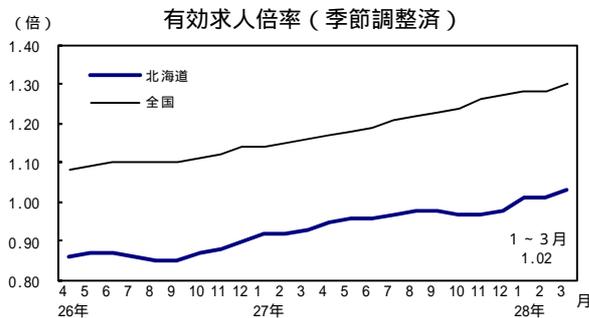


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は、着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期から持ち合である。



景気ウォッチャー調査（4月調査結果）[雇用関連（現状）]

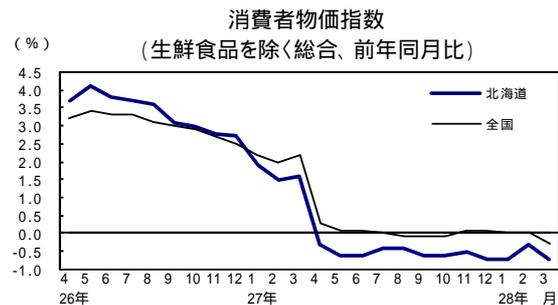
「売手市場ということもあり、企業からの求人は相変わらず多いが、厳選採用の傾向に変化はなく、欲しい人材しか採用していないため、状況に大きな変化はみられない(学校[大学])」などの回答がみられた。

(2) 企業倒産は、件数は減少しているものの、負債総額は増加している。

(3) 消費者物価指数は、前年比の下落幅がおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	27年4-6月	7-9月	10-12月	28年1-3月	28年4月
倒産件数	61	77	59	68	23
(前年比)	20.8	5.5	0.0	17.1	4.2
負債総額	136	113	156	377	47
(前年比)	22.9	25.1	91.9	54.0	12.0



景気ウォッチャー調査（4月調査結果）[合計（景気判断において熊本地震に言及したもの）]

<現状>

・今年の春は気温の低い日が続いており、春物の売上が低迷している。また、熊本地震の影響から客の間に自粛ムードが漂っており、消費意欲の低下がみられる（商店街）。

<先行き>

・先行きの不安感に加えて、熊本地震による自粛ムードが高まっていることから、今後についてはやや悪くなる（高級レストラン）。

景気ウォッチャー調査
(合計：家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

